

令和7年度 第4回 学校運営協議会

1. 日時 令和8年2月12日（木）9:15～11:00

2. 出席者

(1) 学校運営協議会委員

【委員①】 元県立高校校長

【委員②】 PTA 会長

【委員③】 地元（中瀬4区）自治会長

【委員④】 社会福祉法人 管理者 社会福祉士 精神保健福祉士

【委員⑤】 一般企業代表取締役社長

【委員⑥】 浜名区振興課課長補佐

【委員⑦】 社会福祉法人 児童発達支援センター長 医学博士

(2) 校内教職員

校長 副校長 教頭 事務長 小学部主事 中学部主事 高等部主事 自立グループ主任
教務主任

3. 会議次第（進行：会長 司会：庶務）

(1) 会長あいさつ

(2) 校長あいさつ

(3) 協議

(ア) 各学部の年度末評価の報告【学部主事より】

(イ) 学校経営報告書（自己評価）についての報告【副校長より】

(ウ) 来年度の学校運営に係る意見交換

令和8年度学校経営計画案【校長より】

(4) その他

終了後、コンプライアンス委員会の開催

4. 協議等記録

(1) 会長あいさつ

今年度4回目の協議会となる。本日は学校経営計画評価について御意見をいただき、県へ報告する。本協議会は非常に効果的に機能しており、委員の意見を学校が実現しようとする姿勢が見られる。

(2) 校長あいさつ

委員の皆様を学校の応援団と捉え、学校だけでは気づけない点について御意見をい

ただきながら改善を進めてきた。評価のまとめ、また次年度に向けての計画についての御意見をいただき反映させていきたい。

(3) 協議

○各学部の年度末評価の報告【各学部主事より】

<小学部>

- ・児童の気持ちを受け止め、対話を重視した指導を実施。
- ・教員が率先して挨拶を行い、いじめについては良い関り方を即時評価することで友達に優しくする姿が増えた。
- ・学習指導要領に基づく根拠ある指導を実践。ICT活用はまだ教員が学んでいる段階。
- ・地域ボランティアの計画的活用と月1回の情報発信。
- ・放課後時間を活用した業務効率化を模索。

<中学部>

- ・生徒への称揚を重視し、人権に配慮した指導。
- ・ICT活用や他学部理解のための学習会の実施。
- ・地域防災学習の実施。
- ・「お互い様」の意識をもった協働体制の推進。

<高等部>

- ・生徒会主導の挨拶運動など主体的活動を推進。
- ・授業主導を生徒に任せ、ICTを表現ツールとして活用。
- ・文化祭や報告会等の企画運営を生徒が担当。
- ・日課変更により事務処理・対話時間を確保。

【質疑応答】

- 委③) 勤務時間内に事務処理の時間を得るために何か工夫をしたか。
→日課変更により放課後の時間が増加。

○学校経営報告書（自己評価）についての報告【副校長より】

ア 安全・安心（人権）について

- ・教師の率先した挨拶により児童生徒の挨拶も増加。
- ・一方で呼称の在り方に課題。

【質疑応答】

委⑤) 生徒に寄り添ったり、学び合ったりする印象を受ける。対話というと説明、説得、指導になってしまう。対話をして受け止め、自分の考え行動が変わらなければならない。自分の中で受け止めることができるか。対話をそのように受け止めてほしい。また「学校は楽しい」の評価指標の明確化が必要。

委①) 「笑顔あふれる学校」も評価指標が必要。

委⑦) 形だけでやっているとポジショントークになってしまう。大人がロールモデルとなれるとよい。表面的ではなく、心に届く指導を意識してほしい。

ア 安全・安心（命を守る）について

- ・避難訓練を通して緊急時の共有。
- ・自転車指導強化が課題。
- ・校内収納不足による安全面の懸念。

【質疑応答】

委④) 環境整備の点からのヒヤリハットはあるか。

→ヒヤリハットは起きてはいないが、災害時に必要な場所に物が置かれている。また児童生徒がクールダウンする場が簡易的なもので準備しているため安全面で不安がある。

委⑥) 地域避難所としての学校と市と連携し今後も行っていく。

委③) 福祉避難所として一歩前進した。ルールができつつある。市としての組織体制が構築されてきた。

委⑦) 発災した直後の帰宅困難。急性期の避難場所と長期的な避難場所として2点について考えていかなければならない。学校として受け入れ可能範囲を明確にすべき。

イ 授業力・専門性（授業づくり）について

- ・分析シートを活用した根拠ある授業づくり。
- ・ICT活用の推進と教員間の力量差。
- ・授業後の振り返りと共有の重要性。

【質疑応答】

委⑤) 授業づくりの意識、学び合う姿勢が表れている。授業の見直しを共有しブラッシュアップしてほしい。

委③) 自立活動目標分析シートとはどんなものか。目標を意識し、そこに沿った指導を行ってほしい。

→学習する前の子供たちの状態を探るもの。困っている、得意なところを話し合い、学びにつなげるもの。

委①) 教員は皆、授業力不足と思っている。授業力があると思っている人の方が心配。授業力とはなにか。最終には笑顔なのではないか。

イ 授業力・専門性（キャリア教育）について

- ・好きや得意を生かした役割の設定。
- ・他学部を知る機会の日常化

【質疑応答】

委④) 児童生徒の好き、得意を生かす具体的な取り組みを知りたい。

小学部：高学年が様々な人と関わりたい気持ちから先生や下級生をゲーム大会等に招待し喜んでもらう授業を行った。

中学部：1年生が初めての作業学習で身につけた技術で3年生に卒業プレゼントを作っている。

高等部：学校を中心として文化祭の司会や運営。また実習報告会の企画運営を行った。

ウ 連携・協働（地域資源）について

- ・ボランティアの計画的活用。
- ・大学との連携によるボランティアの募集アプリの活用。

【質疑応答】

委①) 地域資源を具体的に人的資源としたらどうか。

委⑤) 支援協力の必要性を教育委員会に届けてほしい。行政とのつながりには県のサポートが必要。

委②) 大学と連携したボランティアの募集の進捗状況は。地域のボランティアは辞退者も多く新しい担い手が必要。地域資源ではなく別の表現があるとよい。「地域の力」など。

→学生とアプリを試行し、改善をしている。

委②) 地域ボランティアとのゲームコーナーの中でも学びがある。目と手の協応。

ウ 連携・協働（効果的な発信）について

- ・販売会・インスタグラムによる発信強化。
- ・フォロワー増加。
- ・HPとの役割分担整理が必要。

【質疑応答】

委⑤) 高校野球の取組みは生徒と教員の気持ちがあふれていた。小さな挑戦もたくさん発信してほしい

エ チーム・信頼について

- ・小集団での対話推進。
- ・業務量増加による時間超過。

【質疑応答】

委⑦) 目標の主語が教職員。教職員だけではないので意識を変えて取り組んでほしい。

委①) 教職員が仕事を通して自己実現、成長できているかを問う場所があるとよい。

委⑤) 業務を削減することは難しい。管理職から「やめることリスト」など提案があるとよい。

○来年度の学校運営に係る意見交換

令和8年度学校経営計画案【校長より資料に沿って説明】

【主な見直し点】

- ・項目の重点化。
- ・「チーム浜北」としての意識向上。
- ・「わくわく笑顔」という分かりやすい表現。
- ・成果目標を「100%」から「できている」へ変更。
- ・「個性（強み）」を「自分らしさ」という視点が大切。

【方向性】

- ・人権を大切にする学校づくり（教職員間も含む）
- ・自分で命を守れる指導
- ・夢中になる授業づくり
- ・生成 AI 活用研修の開始
- ・地域との連携深化
- ・学習の意図が伝わる情報発信
- ・働きやすい職場環境づくり

【質疑応答】

委⑤) 学校を良くしていきたい気持ちが伝わる。校長の思いを継続的に伝え、ワンチームへ。

委⑦) 待機保護者も含めた「チーム浜北」の意識を。

(4) その他

来年度の運営委員について

副校長より説明

第4回学校運営協議会終了後

<校内コンプライアンス委員会>

【学校の取組説明】副校長より

- ・奇数月にテーマを決めて、小グループでの話し合いを実施
- ・校内相談員を任命し、相談しやすい環境づくり
- ・「ととのうタイム」を設定し、風通しの良い職場環境づくり
- ・学部内で対話を通じてキャリア形成
- ・コンプライアンス通信による注意喚起